

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立芸術文化センター	
施 設 名	兵庫県立芸術文化センター	
助 成 対 象 活 動 名	ひょうご「心の広場」ステップアッププロジェクト	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	59,041	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図 (概念図)

(事業名)

ひょうご「心の広場」ステップアッププロジェクト

ひょうご舞台芸術魅力拡充事業

(平成31年～令和2年度)

開館からのにぎわいの安定・継続
と新たなチャレンジ

にぎわい続ける劇場であり続ける
(安定・継続)とともに、新たなチャレンジ
により県民生活の質的向上



ひょうご「心の広場」ステップアッププロジェクト

(令和2年～令和7年)

開館20周年に向けた「新たなステージ」の取組

- ・コロナ禍での舞台芸術の継続の模索
⇒劇場空間での鑑賞による感動の提供・人のつながり
- ・開館20周年に向けたにぎわいの安定・継続(プロデュース力とフロンティア力)
⇒飽きさせない新しさの提供「人生を通じて楽しめる劇場空間の創出」

国際水準の創造発信

本格的創造公演による楽しさを感じる劇場
他では観られない楽しさ、醍醐味、新しい発見
わくわく感の醸成

(芸術監督プロデュースオペラ(国際水準))

(普及系プロデュースオペラ(中ホール))

(CuttingEdgeKYOGEN(演劇的古典芸能))

アウトカム

- ・トップレベルの劇場として実績継続
- ・我が国の実演芸術の国際プレゼンスに貢献
- ・県民生活の質的向上、芸術文化を通じた地域創生推進
- ・地域拠点劇場として、にぎわいづくりの核となる
- ・芸術文化を通じ、心の豊かさを実感できる社会の実現

人材養成

次世代の担い手育成とまちのにぎわいを作る劇場
アートマネジメント、舞台技術の継承と地域創生

・管弦楽団アカデミー要素の発揮、アンサンブル力強化
市町文化施設スタッフのスキルアップ、連携強化
(シーズン・オープニング・フェスティバル)

(小学校・特別支援学校へのアウトリーチ)

・大学(芸術文化観光専門職大学)等との連携

劇場での実務体験受入、大学での講義実施

・地域の人材・組織の活用・支援

(普及系プロデュースオペラ(中ホール))

アウトカム

- ・人材を育て、世界に発信するアカデミー機能の充実
- ・実演芸術における専門的人材育成

舞台芸術の普及

親近感と期待感を感じる劇場

舞台芸術のわかりやすい紹介

子どもたち(次世代)へのアプローチによる拡がり

・子どもたち(次世代)へ
子どもの日コンサート
バックステージツアー

・レクチャー事業(ハイライトコンサート、プレレクチャー)

・特色あるシリーズ企画

(世界音楽図鑑、クリスマスジャズ、ステップシリーズ)

・低料金で親しみやすい良質な公演(ワコイン・コンサート)

アウトカム

- ・劇場を核としたまちのにぎわいの創出
- ・地域の拠点劇場として文化振興の核となる

ネットワーク形成

ネットワークのハブとしての魅力創造を発揮する劇場
情報・人材の交流、公演の連携

・県内外ホール・芸術文化団体とネットワーク事業、民俗芸能祭

(県内市町連携:ハイライト・コンサート、シーズン・オープニング・フェス)

(関西劇場、芸術団体連携:普及系プロデュースオペラ)

(全国劇場:共同制作オペラ、音楽・演劇公演の提携)

・人材育成事業

(長期研修受入(学生・劇場関係者)、大学との連携)

アウトカム

- ・地域拠点劇場として、にぎわいづくりの核となる
- ・次世代人材育成

withコロナ、afterコロナ



感染症や建築等の専門家の監修を受けながら感染拡大予防がイラインに基づく公演等の実施。安心・安全・快適な公演環境(鑑賞者・出演者・スタッフにとって)モデルの再構築・提示
感染拡大防止・感染リスクの軽減、インターネット配信等

(2) 令和4年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ「ラ・ボエーム」※	7/15(金)～24(日)	[指揮] 佐渡 裕 (芸術文化センター芸術監督)	目標値	11,945
		兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール	[演出・舞台美術・衣装] ダンテ・フェレティ [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団	実績値	12,279
2	佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ「ラ・ボエーム」ハイライトコンサート～ええとこどり!	4/13(水)・14(木)・17(日)・ 23(土)・24(日)、5/8 (日)・14(土)・15(日)	[ソプラノ] 森井美貴、四方典子 [構成・ステージング] 河原義 [舞台監督] 芸術文化センタースタッフ	目標値	1,360
		兵庫県立芸術文化センター-阪急 中ホール_他県内ホール		実績値	1,471
3	佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ「ラ・ボエーム」ワンコインレクチャー	6/2(木)	[1回] 講師: 中村敬一 (演出家)	目標値	1,360
		兵庫県立芸術文化センター-阪急 中ホール	ゲスト: 砂川涼子 (本公演ミミ役) 掛川歩美 (ピアノ)	実績値	1,484
4	Cutting Edge KYOGEN	7/9(土)	[出演者] 茂山千五郎、茂山千之丞_他 [制作] 芸術文化センタースタッフ [作・演出] 新作狂言 (作 茂山童司)	目標値	557
		兵庫県立芸術文化センター-阪急 中ホール		実績値	741
5	オペラプロジェクト 2023「森は生きている」	3/25(土)～26日(日)	[指揮] 沼尻竜典 (びわ湖ホール芸術監督)	目標値	980
		兵庫県立芸術文化センター-阪急 中ホール	[出演者] びわ湖ホール声楽アンサンブル [演出] 中村敬一 (大阪音楽大学客員教授)	実績値	1,015
6	兵庫芸術文化センター 管弦楽団シーズン・オープニング・フェスティバル	9/6(火)～10(土)	[指揮・芸術監督] 佐渡 裕 [スペシャル・ゲスト・プレイヤー] 田野倉雅秋_他 [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団	目標値	820
		やぶ市民交流広場ホール		実績値	800
7	兵庫芸術文化センター 管弦楽団小学校・特別支援学校へのアウトリーチ	6/21(火)～24(金) 3/14(火)～17(金)	[出演者] 芸術文化センター管弦楽団有志 [内容] 小学校と特別支援学校向けに特化したアウトリーチ。お話つきアンサンブルコンサート。	目標値	750
		県内小学校・特別支援学校		実績値	871
8	「ゴスペル・イン・文楽」	7/6(水)	[概要] クリスマスの豊竹呂太夫企画によるクリスタの生涯を描いた創作文楽。兵庫県ゆかりの演目を新たな切り口で解説・上演。	目標値	500
		兵庫県立芸術文化センター-阪急 中ホール		実績値	709
9	宮川彬良&アンサンブル・ベガ こどもの日スペシャル♪※	5/5(木)	[概要] 宮川彬良と各オーケストラの首席奏者8名による子どもから大人まで楽しめる本格的クラシックコンサート。	目標値	1,107
		兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール		実績値	903
10	世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ 2022	6/17(金)、7/3(日) 8/27(土)、12/10(土)	[概要] 世界各地の民族音楽やパフォーマーを紹介する人気シリーズ。公演に関連したワークショップ等も実施。	目標値	1,725
		兵庫県立芸術文化センター-阪急 中ホール_他		実績値	2,697

11	クリスマス・ジャズ・フェスティバル 2022	12/1(木)、9(金)、14(水) 17(土)、20(火)、21(水)	[概要] 毎年12月にHyogo クリスマス・ジャズ・フェスティバルとして、日本を代表するジャズ奏者、海外の気鋭奏者による演奏会を実施。	目標値	5,790
		兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール_他		実績値	6,801
12	ステップシリーズ 高田泰治 美しき古の音	9/25(日)	[概要] ステップシリーズは“初めて聴くなら一流を”をコンセプトに若年層を中心としたファン拡大に資する入門的な公演を実施。	目標値	310
		兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール		実績値	410
13	河村尚子 シューベル ト・プロジェクト〜ピアノ・リサイタル〜	9/19(月・祝)	[出演者] 河村尚子(兵庫県西宮市出身) [プログラム] オール・シューベルト・プログラム第2回 (1回目は3年度実施済)	目標値	380
		兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール		実績値	398
14	ワンコイン・コンサート	4/12(火)、5/21(土) 6/23(木)、8/10(水) 9/13(火)、10/14(金) 11/11(金)、12/2(金) 2/10(金)、3/17(金)	[概要] ワンコイン(500円)と低価格で、公演時間は正午前後の1時間、関西ゆかりの若手演奏家による演奏。	目標値	14,000
		兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール		実績値	17,544
15	ワンコイン・コンサート No.1アーティスト 2021	3/8(水)	[出演] 吉本梨乃(ヴァイオリン)、前年度のワンコイン・コンサートで最も反響の大きかったアーティストによる公演	目標値	360
		兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール		実績値	408
16	なるほどバックステージツアー2022	5/20(金)、8/4(木) 9/28(水)・29(木)、 11/29(火)、12/7(水)、 1/11(火)	[概要] 照明や音響の設備操作ができる体験型の企画。劇場来訪への敷居を低くし、親しみと興味を醸成。	目標値	800
		兵庫県立芸術文化センター 各ホール		実績値	628

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

※事業番号①；新型コロナウイルス感染症防止を図るための距離の確保 232 席売止

事業番号⑨；新型コロナウイルス感染症防止を図るための距離の確保 371 席売止

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>兵庫県立芸術文化センターは、阪神・淡路大震災からの『心の復興・文化の復興』のシンボルとして設置。劇場に来館し、舞台芸術という非日常を楽しみ、気持ちを新たに日常生活を楽しむ『舞台芸術を通じて人とまちを元気にする』ことをミッションとし、</p> <p>①コロナ禍での舞台芸術の継続の模索（劇場空間での鑑賞による感動の提供・人とのつながり）</p> <p>②開館 20 周年に向けたにぎわいの安定・継続（人生を通じて楽しめる劇場空間の創出）を掲げ、地域の特性・ニーズと芸術文化センターの強みを十分に生かした、ひょうご「心の広場」ステップアッププロジェクトを実施。</p> <p>(1) 年間主催公演数 313 公演（中止 5 公演）（目標 300 公演） (2) 年間ホール稼働日数 326 日（目標 300 日）</p> <p>(3) 年間公演入場者数 42 万人（目標 50 万人） (4) 主催公演入場率 86.9%（目標 88%）</p> <p>(5) 主催公演満足度 98.1%（目標 95%）感染症対策を徹底し（前方席の販売停止、手指消毒、検温等）、当初の予定通り公演を実施。来館者数はコロナ前の約 9 割まで回復。コロナ禍にあっても劇場が県民の心の拠り所として、劇場を通して人と人との絆をつなぐ事に寄与、にぎわいの安定・継続に寄与。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>専門性のあるホール（施設）、専門性をもった人材（劇場運営、アートマネジメント、舞台技術）によって地域のニーズに応えた事業・ニーズを掘り起こす事業を実施。また、国際レベルを向上する事業を実施し、人材育成（基盤整備：若手出演者への出演機会提供、地元人材活用、他館との連携によるスキルアップ）に努め、下記の各事業の達成状況より助成に値する文化的、社会的、経済的意義が継続して認められる。</p> <p>1. 国際水準の創造公演を通じた世界への発信（文化的意義）</p> <p>「佐渡芸術監督フェスティバル」は、世界トップレベルのキャストやスタッフの招聘により、兵庫から世界に向け、国際水準の芸術性を備えたオペラ公演を実現し、我が国の実演芸術の国際レベルに貢献。</p> <p>オペラ鑑賞機会の少ない関西圏域において、質の高い公演を低価格で実現し、ピギナーとリピーターを年々拡充。「普及系フェスティバル」、「Cutting Edge KYOGEN」と共に、出演者、スタッフと地域人材の積極登用を図り、地域人材の育成、地域経済へ貢献。複数の感染症専門家の監修を仰ぐなど、感染拡大防止に最大限配慮しながら実施。関連イベント（フレクチャー、県内各地で実施のナイトコンサート等）も合わせてオペラプロジェクトとして展開し、まちのにぎわいを創出。</p> <p>2. 人材養成事業を通じた地域や世界への貢献（社会的意義）</p> <p>・専属管弦楽団（通称：PAC）の設置は持続的な創造活動を支える柱であるとともに、アガミ機能として世界に向けて優秀な人材を輩出することで、国際レベル向上を発揮。県内各地域で行う「シーズン・オブ・キング・フェスティバル」は、地域の音楽文化の熟成と地域のにぎわい作りに寄与するもとともに、県内文化施設スタッフのスキルアップに貢献。「小学校・特別支援学校アトリチ」を実施し実演芸術の魅力を届けていく活動を展開。</p> <p>3. 普及事業を通じた地域のにぎわいづくり（経済的意義）【資料 1】経済波及効果、【資料 2】住みたい街ランキング</p> <p>・世界各地の音楽をシリーズで紹介「世界音楽図鑑」、兵庫県ゆかりの演目や人材を古典芸能で取り上げ、地域の魅力を再発見する「ひょうごの民俗芸能祭」など特色あるライナップの提供で、県民の幅広い期待に応えた。</p> <p>・低価格で親しみやすい事業（「ワコイン・コンサート」等）を実施し、広範囲な観客を招き、舞台芸術ファン裾野拡大と若手演奏家への演奏機会の提供による人材育成を図った。また、コンサート終了後には多数の来館者が周辺の商業施設を回遊し、消費活動を活発化させるなど、経済波及効果に大きく貢献。（経済波及効果：県内 71 億円/年間継続、関西住みたい街ランキング 2016～2021 連続 1 位）。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

令和4年度は新型コロナの影響を受けつつ、感染症専門家の監修を仰ぎ、感染拡大防止に最大限配慮しながら公演実施。概ね『コロナ禍での舞台芸術の継続』『開館20周年に向けたにぎわいの安定・継続』の目標達成。コロナ禍においても県民が劇場で舞台芸術に接する機会を積極的に提供。以下の事業遂行の結果(アウトプット)により事業成果(アウトカム)が発現している事が認められる。①世界水準の監督プロデュースをはじめとする多彩な舞台芸術を、多くのファンに支えられながら、高い運営実績を継続、②地域における『質の高い』創造芸術の発信を継続(創造性、企画力が高く特色ある実演芸術の継続発信)、③親しみやすい良質な公演など『幅広いニーズ』に応える公演を継続発信(子どもたち(次世代)へのアプローチなど裾野拡大)④専属管弦楽団運営やアーティスト研修、若手演奏家の登用など優秀な人材を継続的に養成⑤県内劇場とのネットワーク、県外劇場と連携、地域舞台芸術団体へ支援を継続実施

a トップレベルとしての実績の継続(芸術とつながる)

⇒芸術文化センターが発信するソフトへの支持・信頼・ブランド確立、我が国の実演芸術の水準向上と県民の鑑賞機会拡大
【指標】高い運営実績 年間主催公演数(R4:313)(目標300)、年間ホール稼働日数(R4:326日)(目標300日)
高い集客力 年間公演入場数(R4:42万人)(目標50万人)、プロデュース入場者数(R4:12,279人)(目標1.2万人)
熱心な支持層の形成(10回以上のリピート率R4:64.2%)(目標61%)、新しいファンの発掘(初めて来場者率R4:8.1%)(目標8%)、県外観客比率*関西の拠点館として県外への拡大(先行予約会員)(R4:43.1%)(目標45%)
質の高い公演 主催公演入場率(R4:86.9%)(目標88%)、主催公演満足度(R4:98.1%)(目標95%)

*主催公演入場率については僅かに目標に及ばず、コロナによる来館者の心理的外出抑制の影響と推測

b 県民生活の質的向上、芸術文化を通じた地域創生の推進(地域社会とつながる)

【指標】街のイメージ向上、関西住んでみたい街ランキング2016-2021は連続1位「西宮北口」【資料2】
「仮想評価法」による社会的便益価値*利用価値だけでなく非利用価値の認知の維持(兵庫県民が芸術文化センターに対して感じる社会的便益は前回調査(2009年)に比べて倍増「子や孫など、将来世代に必要」「地域の魅力を高める」といった理由が挙げられている【資料3】

兵庫県民意識調査「兵庫の豊かさ指標」(阪神南地域)【資料4】「住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合」(R4:73.7%)(目標69%)「お住の市・町では、芸術文化に接する機会があると思う人の割合」(R4:47.9%)(目標43%)

c 劇場を核としたまちのにぎわいの創出(地域社会とつながる)

⇒劇場運営による経済波及効果及び地域経済活性化の促進(経済波及効果(H27) 県内71億円、全国149億円)

【指標】にぎわい創出 イベント実績数・参加者数(R4:703回、42.8万人)(目標700回・50万人)
経済波及効果 生産誘発効果、劇場周辺商業動向 10周年(H27)高水準を維持⇒開館20周年(R7)に調査予定

d 世界に人材を育て発信するアガミ機能の充実(人と人とのつながり)

⇒実演芸術におけるスペシャリストの育成、兵庫から世界に向けて優秀な人材を発信(管弦楽団卒団生の他オーケストラ入団)

【指標】専属管弦楽団メンバー 卒団者数(23か国81楽団(国内26楽団)139人)(R7迄目標154人)【資料5.6】
若手演奏家実績*ワコソウ・コンサート出演者からセンター主催事業の出演数(R4:11人)(目標8人)、受賞(R4:1人)【資料7】

e すべての県民が芸術文化を通じ、心の豊かさを実感できる社会の実現(地域・世代を超えたつながり)

⇒お客様の裾野拡大、劇場のにぎわい進化【指標】初めて鑑賞者継続拡大(初めて来場者率)(R4:8.1%)(目標8%)

f 地域の拠点劇場として地域文化振興の核となる(地域社会とのつながり)

⇒芸術文化を通じたにぎわいづくりを全県に伝播し、文化振興の核となる(県内展開実績)

【指標】管弦楽団(PAC) 県内施設・団体と連携公演(R4:8公演、目標5)、県外劇場・団体との連携数(R4:5公演)

g 感染予防対策の周知徹底⇒感染拡大防止、リスク軽減【指標】R4_職員・委託業者等研修実施1回・参加者27名

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

1年間(4月~3月)を通じたラインナップを編成(管弦楽団は9月~8月のシーズン制)し、佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ(7月)とともに、幅広いニーズに対応した多彩・多様な事業展開を計画通り継続して実施。令和4年度も複数の感染症専門家の監修を仰ぐなど、感染拡大防止に最大限配慮し(事業番号1佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ「ラ・ボエム」では、PCR検査延べ3,300回実施、手指消毒の徹底、携帯ファンとマスクの着用での稽古等)、全16事業を実施。

事業期間は適切で、当初の計画通りに進んでいる。

事業期間にアウトプット(有効性で掲出)を着実に算出しており、『コロナ禍での舞台芸術の継続』『開館20周年に向けたにぎわいの安定・継続』という目標に沿って運営を行っている。

コロナの感染拡大防止に最大限配慮しながら、お客様(県民)が一日でも早く劇場で生の舞台芸術に接することができる機会の提供をめざし、令和2年6月より「Meet-HPAC リサイタルホールから」としてオンラインリサイタルシリーズ(無観客、映像配信)、「オーケストラ公演の再開に向けて~ディスカッションとテーマ演奏~」(関係者限定公開、映像配信、演奏者間の距離確保、アクリル板パーティション設置による演奏試行)と様々な取り組みを実施した事が、劇場からの来館者離れの抑制(令和4年度来館者数コロナ前の9割程度回復)に貢献している。これらの取り組みは、助成金(令和2年度総合支援事業対象事業)を財源として実現可能となった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

コロナ飛沫感染防止を図る距離の確保の為、一部公演で前方席の販売を停止したが(事業番号1佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ「ラ・ボエム」、9「宮川彬良&アンサンブルベガ こどもの日スペシャル」)、券売努力による入場料収入の増、助成金の獲得等によって当初より収入は増加した。また、経費削減に取り組み支出は減少した。予算と決算の差、収入25.3%の増、支出は1%減となった。事業費は適切であり、当初の計画通り進んでいる。

【令和4年度】

当初予算(収入): 157,730千円

決算決算(収入): 197,783千円

・当初予算と決算の差は25.3%増となった。

・予算作成時に、事業番号1佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ「ラ・ボエム」の席止めの影響を考慮して(232席×8公演×12,000円=22,272千円減)予算を作成。席止めの影響を受けつつも券売努力により入場料収入が実績増となった。また、12月に実施する事業番号11クリスマスジャズ・フェスティバル2022をはじめ、コロナの影響による来館者減を見込んで予算(入場料収入)を組んだが、予想よりも来館者の戻りが早く、入場料収入増による実績増となった。

当初予算(支出): 338,995千円

決算決算(支出): 335,486千円

・収支予算との差は1%減であり事業費は適切で当初の計画通り進んでいる。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

芸術文化センターは「劇場はみんなの広場」として人々が元気で輝き続ける劇場であり続けることが出来るよう、開館以来、まちのにぎわいを創出するとともに、県内ホールとのネットワークによる活動展開を図りながら、県民生活の質的向上・社会的課題解決・地域創生の一翼を担っている。

当センターは、独創性、新規性、先導性に優れた事業を実施する為に、芸術監督等の舞台芸術経営のプロフェッショナルを配置し（芸術監督：佐渡裕（指揮者）、運営責任者：山下副館長（行政）、舞台技術陣）、佐渡監督のからの様々な提案等を、公の施設として副館長が適正にマネジメントし、職員はじめ専門劇場の舞台技術陣と調整し、現場と直結した迅速な意思決定、即断即決解決型の体制を特色としている。

当センターの事業計画の中で代表的な事業である佐渡裕芸術監督企画によるプロデュース公演は、毎年、世界水準のオペラを全国的に稀なロングラン上演（8公演）する取組み。令和4年度は開館15周年を記念して令和2年に上演予定であったプロデュース公演「ラ・ボエーム」を実施。コロナによる公演中止を決断してから2年、奇跡的にその時と同じキャスト・スタッフが再結集して上演実施。令和3年実施公演「メー・ウイドゥ」での経験を活かしコロナ禍における大規模自主制作オペラとして万全の感染防止対策を講じ全国に先駆け実施（先導性）。国際水準の公演とするため国内選りすぐりの精鋭リスト（イタリアでオペレーションを行いミラノ・スカラ座アカデミー出身者たちを選抜、今後世界を舞台に活躍するのが楽しみな若手）、専属楽団のPACオーケストラによってセンターのソフトとハードを最大限に発揮し、米アカデミー賞美術賞に3度輝いたダンテ・フェレティ演出により児童合唱も併せ総勢96名による合唱、衣装、装置、照明のすべてが一つになって進行する総合芸術としての舞台（オペラ）を制作（新規性）。また、本公演を核とした地域の一大イベントとして事業を展開（独創性）。各地域でのオペラ鑑賞ファンの広がり、継続した公演要望に応じて、本公演実施前に、①ハイライトコンサート：県内7市町にて実施、②プロレクチャー：専門家の講師による上演鑑賞に役立つ予備知識を紹介することで舞台鑑賞力向上に貢献、③館内の展示コーナー「ホック」（無料鑑賞スペース）で、関連資料・写真を展示し、初めて鑑賞する方々にも、より解りやすく親しみやすい内容とし、オペラ公演を盛り上げる、④公開リハーサル：最終総稽古（ゲネ ral）を、お客様役でオペラ舞台の制作過程を共有体験する機会を提供、⑤オペラ前夜祭イベント：公演初日の前日、芸術文化センター前の高松公園にて、地元商店街等『西北活性化協議会』や地元学生等との共同企画により実施し、街全体でオペラ公演を盛り上げ、より多くの住民が気軽にオペラに親しむ機会を提供し、地域の魅力アップ、まちのにぎわい作りに貢献している。

さらに、事業の独創性、新規性の大きな特色が、創造集団としての専属管弦楽団である。芸術的責任と権限を有する「芸術監督」の下、オペラでの演奏、県内劇場とのネットワーク形成（県内外での公演）、小学校・特別支援学校アトリチ活動、シーズン・オープニング・フェスティバル（市町ホールでのアトリチ、公演）などのパブリックアターにふさわしい多彩な活動を展開し、地域における音楽文化の発展に寄与している。

また上記以外の独創性の高い事業として、「ワコイン・コンサート」とその後引き続く「ワコイン・コンサート No.1」、「なるほどバックステージツアー」をはじめとする劇場への来訪への敷居を低くする普及啓発公演（低料金で親しみやすい良質な公演）、当センターへの複数回来訪を促す「世界音楽図鑑ワールド・ミュージック・シリーズ」、「クリスマス・ジャズ・フェスティバル」、「ステップシリーズ」「宮川彬良こどもの日コンサート」の特色ある人気シリーズ企画を展開している。

コロナ禍においても、感染予防を徹底しながら、舞台芸術の継続を模索し、公演を継続実施。親近感と期待感を感じる劇場として、また、子どもたち（次世代）へのアプローチにより、広範囲な集客を招いている。演奏会終了後には、多数の来場者が当センター周辺の商業施設を回遊し、飲食や物品サービスの購入等により消費活動を活性化させるなど、地域のにぎわいづくり、経済波及効果にも大きく貢献している。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

国内外での評価 ～栄誉ある評価～【主な受賞】

- ・関西元気文化圏ニューパワー賞「兵庫芸術文化センター管弦楽団」[H19. 1. 11 関西元気文化圏推進協議会]
- ・関西元気文化圏賞特別賞 [H23. 1. 20 関西元気文化圏推進協議会]
- ・地域創造大賞（総務大臣賞） [H23. 1. 21（財）地域創造]
- ・神戸新聞平和賞「佐渡裕と兵庫芸術文化センター管弦楽団」[H23. 5. 3（株）神戸新聞社]
- ・関西元気文化圏賞10周年記念特別賞「佐渡芸術監督」[H25. 1. 22 関西元気文化圏推進協議会]
- ・ミュージック・ペンクラブ音楽賞「兵庫芸術文化センター管弦楽団」[H29. 4. 24 ミュージック・ペンクラブ・ジャパン]

【海外からの評価】

- ・2012年芸術監督プロデュースオペラ「トスカ」で、芸術文化センターが制作したプロダクション（演出、舞台装置、衣装、照明、映像）により、トリノ王立歌劇場で、2016年2月から10公演上演され、ボローニャ劇場で2017年12月8公演上演された。国内制作されたオペラプロダクションが海外、中でもヨーロッパ有数の名門歌劇場の本公演として上演されることは極めて稀で（日本オペラ史上初）芸術文化センター制作のオペラ水準の高さ（国際レベル）を示すとともに、海外の実演芸術団体とのつながりを、より一層向上。

1. 世界に向け発信する国際水準の創造公演

- ・佐渡芸術監督企画によるプロデュースオペラ
（残された者の人生 想像広がる2022. 8. 18_朝日新聞【資料8】）
（2年越しでついに上演《ラ・ボエーム》作品の本質を浮き彫りにしたフェレティ演出_音楽の友8月号【資料9】）
（「佐渡裕さんのオペラ」大人気_モストリクラシック11月号【資料10】）

2. 地域や世界に向けた人材養成

- ・創造集団である楽団の設置・運営は、芸術文化センターが掲げるミッション遂行のための強みであり、持続的な創造活動アカ
デミー機能として世界に向けて優秀な人材を輩出することで、国際プレゼンス向上に貢献。
- ・県内各地域で行う「シーズン・オブ・ミュージック・フェスティバル」は、演奏会の他にも芸術監督による地元中学生への公開マスタークラス、楽団アクトリチ、公開リハーサルの実施等の地元住民との交流を通じて、地域の音楽文化熟成とにぎわいづくり、県内市町村文化施設スタッフのスキルアップに貢献。
（劇場と竹が一体、地元で愛されているのが分かる」2017. 10. 7_神戸新聞【資料11】）
（唯一無二の楽団「PAC」2021. 9. 16_産経新聞【資料12】）

3. 地域との連携

- ・芸術文化センターを核とした地元商店街等による「西北活性化協議会」を設立し、地域と連携した様々なイベントを実施。5月でコロナが季節インフルエンザ並みの5類扱いとなり、コロナも一区切。ポストコロナと芸術（劇場）の位置づけについて。
（「復興の象徴」は2015. 8. 21_朝日新聞【資料13】）
（「文化復興 兵庫がシボール」2020. 1. 6_読売新聞【資料14】）
（「激変で見た音楽の本質とは」2021. 4. 10_神戸新聞夕刊【資料15】）
（「コロナ禍とクラシック音楽_窮状乗り越えた団結と努力」2023. 5. 25_毎日新聞朝刊【資料16】）
（「ポストコロナの芸術_やはり人々は劇場を求めている」2023. 4. 6_毎日新聞夕刊【資料17】）

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

阪神・淡路大震災からの創造的復興、文化復興のシンボルとしてこれまでの運営で蓄積してきた施設の強みや特色を発揮し、設置者である兵庫県と連携し安定した運営基盤の確保を図り、地域特性やニーズへの対応を前進させ、事業計画を通じて“兵庫県芸術文化振興ビジョンの実現”“芸術文化立県ひょうご”に向けた歩みを進めている。「組織」「資金」「ネットワーク」の中長期的安定・維持の為に次の仕組みで運営。

・多彩で魅力ある舞台芸術の創造発信とともに、安全・安心・快適な劇場空間、適正で効率的な劇場運営を支える体制を構築

・優秀な人材の確保・育成（継続雇用）を図りながら、円滑な世代交代を実施。有期雇用者の中からプロパーに選抜し、正規雇用率の引き上げを実施（H17_7割→R3_6割→R8_7割）。

・県費（指定管理料、補助金）をベースに経営効率を高めるとともに、ファンの期待に応える、メニューの充実、舞台のグレードアップ、公演数拡大、ネーミングライツ、賛助会員（地元企業の応援）の獲得・継続努力、各種公演ごとに協賛金、民間助成金の獲得・継続努力を実施。

・オペラ・ライトコンサート、楽団シーズン・オープニング・フェスティバルを県内施設で実施し、芸術文化センタースタッフによるステージマネジメントの支援や様々な角度での交流を行い、市町文化施設職員のスキルアップに貢献。また、他の文化施設からの研修生受け入れを実施。

・委託業者とのミーティング（週1回）、経営会議（月2回）等による部門間の総合調整、運営委員会（年1回）に中長期的方針を決定。安定した事業実施の為に、施設・設備の適正なメンテナンス・改修計画を策定、実施。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

事業成果（アウトカム）「芸術とつながる、地域社会とつながる、人と人とのつながり、地域・世代を超えたつながり」を設定し、事業成果（アウトカム）を達成する為の事業を①国際水準の創造発信（質）、②人材養成（人）、③舞台芸術の普及（ひろがり）、④ネットワークの形成（連携）、⑤全体に共通する視点として感染症対策（withコロナ、afterコロナ）の視点から設定。

各事業を遂行することで求められる事業遂行の結果（アウトプット）「高い運営実績の継続、質の高い創造芸術の発信継続、幅広いニーズに応える公演を継続発信、優秀な人材を継続養成、県内外劇場とのネットワーク強化、地域舞台芸術団体の連携・支援、大学等との連携、感染予防対策の徹底、地域人材・組織の活用・支援」を設定し、事業成果（アウトカム）を導くための目標を設定。

新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、事業変更を余儀なくされつつ、事業は期間・予算共に適切に実施し、目標を達成していることにより、事業成果（アウトカム）の発現・定着についても期待できる。